

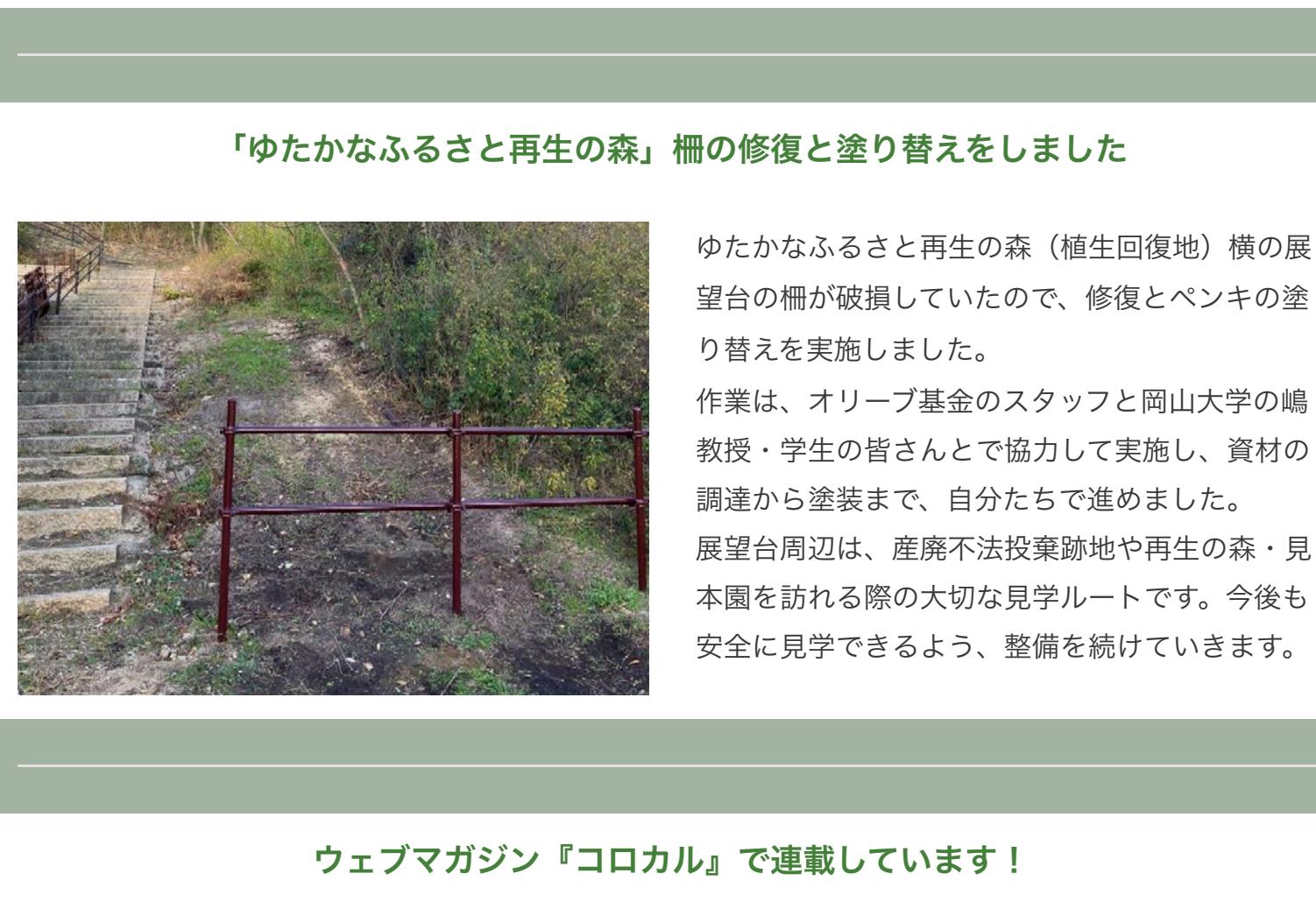
\*このニュースレターは、当基金サポーター会員、配信登録をいただいた方、イベントなどで名刺交換をさせていただいた方にお送りしております。

年が明け、豊島では風の冷たさが身にしみる季節になりました。

瀬戸内オリーブ基金では、昨年末には助成先の訪問や展望台周辺の整備などを行い、ボランティアやイベントの少ない冬のあいだも地道な活動を続けています。

今月のニュースレターでは、そうした現地での取り組みに加え、連載中のコロカル記事や、法人サポーターと協働したオンラインセミナーのお知らせ、25周年記念コラムなどをご紹介します。

### 助成先「里海づくり研究会議」さんを訪問しました



12月19日に、2025年度の助成先の一つである特定非営利活動法人 里海づくり研究会議さんを訪問し、岡山県玉野市・胸上地区で進められているアマモ場再生の取り組みについて、現地でお話を伺いました。

この日は、法人サポーターである株式会社大創産業さんも参加され、活動の背景や現場での工夫などについて一緒に理解を深めました。

助成対象となっている「胸上漁港でのアマモの種付け活動」は、アマモの着床・定着を促すための新しい技術を用いた実証試験です。

当日は、アマモが海の生きもののすみかとなり、生物多様性の回復や水質浄化にもつながる大切な存在であること、そしてこの取り組みがかつてアマモ場が失われた地域での再生モデルとして期待されることなど、丁寧にご説明いただきました。

実際の現場でお話を伺いながら、こうした専門的かつ地道な取り組みに助成というかたちで関わせていただく意義を、改めて感じる訪問となりました。

### 「ゆたかなふるさと再生の森」柵の修復と塗り替えをしました



ゆたかなふるさと再生の森（植生回復地）横の展望台の柵が破損していたので、修復とペンキの塗り替えを実施しました。

作業は、オリーブ基金のスタッフと岡山大学の嶋教授・学生の皆さんとで協力して実施し、資材の調達から塗装まで、自分たちで進めました。

展望台周辺は、産廃不法投棄跡地や再生の森・見本園を訪れる際の大変な見学ルートです。今後も安全に見学できるよう、整備を続けていきます。

### ウェブマガジン『コロカル』で連載しています！

マガジンハウスのウェブメディア『コロカル』にて掲載中の、瀬戸内オリーブ基金の連載「豊島事件の教訓を、未来へ—瀬戸内の自然と暮らしをつなぐ」。第2回では、豊島でかつて起きた「豊島事件」とはどんな事件だったのか、その背景や影響について詳しくご紹介いただいている。

次回は、事件をきっかけに生まれた瀬戸内オリーブ基金の活動に焦点が当たる予定です。ぜひ引き続きご覧ください。

▶ 第1回記事はこちら 「島民がガイドする、何度も楽しい豊島のディープな魅力」

▶ 第2回記事はこちら 「美しく、豊かな島で起こった『豊島事件』とは」

### オリーブ基金と法人サポーターの来月の取り組みのお知らせ

#### 2/4 オンラインセミナー開催 | ユニクロ様の豊島の取組み

Webマガジン「コロカル」が主催するウェビナーシリーズ「コロカルアカデミー」にて、ユニクロ サステナビリティマーケティング部長のシェルバ英子さんが登壇し、豊島での活動についてご紹介されます。瀬戸内オリーブ基金との連携や、地域に根ざした支援の取り組みなど、企業が地域と長く関わるための実践についてお話をいただく予定です。環境や地域づくりに関心のある方におすすめの内容です。

【日時】2026年2月4日（水）15:00～16:00（Zoom開催・無料）

▶ 詳細はこちら

▶ お申し込みはこちら

#### 2/18～19 NGP様が豊島で植生回復ボランティア

NGP（日本自動車リサイクル事業協同組合）の皆さまが、豊島でのボランティア活動を実施予定です。

今回の活動では、「ゆたかなふるさと再生の森」にて表土の撒き出し作業を行います。表土の撒き出しとは、木の本数や種類が少ない場所に、豊島本来の植生が残る場所から、種子を多く含んだ土を運び、撒く作業です。

種が豊富に含まれた表土を撒くことで、草刈りだけでは現れにくい多様な樹木の実生が芽吹き、植生の回復を後押しします。



私は、豊島事件の弁護団の一員でした。

豊島事件は、廃棄物行政を担う立場にありながら、不法投棄を放置、容認していた香川県との闘いでした。1993年に調停を申請し、2000年に調停が成立したので、実に7年もの間、熾烈な闘いを続けたことになります。その期間中、私は毎日戦争をしている気分でした。これが江戸時代であれば、「一揆」と呼ばれ、住民と弁護団は全員が打ち首になっていたと思います。いわば、住民・弁護団と香川県は、不眞戴天の敵でした。

当基金は、豊島事件の解決をきっかけに設立された環境団体です。昨年は、基金設立25周年の節目に当たる年でした。私は、あ까ましくも25周年の記念式典に際し、現職の香川県知事と調停成立時の元知事に対し、メッセージをいただきたいと要請しました。私としては、断られるならそれまでのことを思っていたのですが、池田豊人現知事も真鍋武紀元知事も、この要請を快諾され、暖かいメッセージを寄せてくださいました。私は、深く心を動かされるとともに、香川県にとって豊島事件が歴史になったことを実感した次第です。

しかし、「香川県も私たちも、豊島事件を終わらせることを忘れないのではなく、事件の教訓を次の世代に伝え、「美しいふるさと」瀬戸内海を次の世代に引き継いでいかなければなりません。今年も引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

岩城裕（オリーブ基金理事長・弁護士）

私は、豊島事件の弁護団の一員でした。

豊島事件は、廃棄物行政を担う立場にありながら、不法投棄を放置、容認していた香川県との闘いでした。1993年に調停を申請し、2000年に調停が成立したので、実に7年もの間、熾烈な闘いを続けたことになります。その期間中、私は毎日戦争をしている気分でした。これが江戸時代であれば、「一揆」と呼ばれ、住民と弁護団は全員が打ち首になっていたと思います。いわば、住民・弁護団と香川県は、不眞戴天の敵でした。

#### 2025年度産オリーブオイル販売開始のお知らせ

2025年度に収穫したオリーブから搾った、オリーブオイルの販売が始まりました。

2025年度の収穫は、果実が例年よりも大きく育ったこともあり、非常に出来の良いオイルが完成しました。今年度のオリーブオイルも、国際基準に基づいて香川県が実施する「かがわオリーブオイル品質評価」において、より高品質な「プレミアム」に認定されました。（評価は「スタンダード」と「プレミアム」の2段階）。

今年度は50mlサイズのみの販売となります。島で丁寧に育て、収穫し、搾油したフレッシュなオイルをぜひご賞味ください。

ご購入はこちら

私は、豊島事件の弁護団の一員でした。

豊島事件は、廃棄物行政を担う立場にありながら、不法投棄を放置、容認していた香川県との闘いでした。1993年に調停を申請し、2000年に調停が成立したので、実に7年もの間、熾烈な闘いを続けたことになります。その期間中、私は毎日戦争をしている気分でした。これが江戸時代であれば、「一揆」と呼ばれ、住民と弁護団は全員が打ち首になっていたと思います。いわば、住民・弁護団と香川県は、不眞戴天の敵でした。

当基金は、豊島事件の解決をきっかけに設立された環境団体です。昨年は、基金設立25周年の節目に当たる年でした。私は、あ까ましくも25周年の記念式典に際し、現職の香川県知事と調停成立時の元知事に対し、メッセージをいただきたいと要請しました。私としては、断られるならそれまでのことを思っていたのですが、池田豊人現知事も真鍋武紀元知事も、この要請を快諾され、暖かいメッセージを寄せてくださいました。私は、深く心を動かされるとともに、香川県にとって豊島事件が歴史になったことを実感した次第です。

しかし、「香川県も私たちも、豊島事件を終わらせることを忘れないのではなく、事件の教訓を次の世代に伝え、「美しいふるさと」瀬戸内海を次の世代に引き継いでいかなければなりません。今年も引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

岩城裕（オリーブ基金理事長・弁護士）

当基金は、豊島事件の解決をきっかけに設立された環境団体です。昨年は、基金設立25周年の節目に当たる年でした。私は、あ까ましくも25周年の記念式典に際し、現職の香川県知事と調停成立時の元知事に対し、メッセージをいただきたいと要請しました。私としては、断られるならそれまでのことを思っていたのですが、池田豊人現知事も真鍋武紀元知事も、この要請を快諾され、暖かいメッセージを寄せてくださいました。私は、深く心を動かされるとともに、香川県にとって豊島事件が歴史になったことを実感した次第です。

しかし、「香川県も私たちも、豊島事件を終わらせることを忘れないのではなく、事件の教訓を次の世代に伝え、「美しいふるさと」瀬戸内海を次の世代に引き継いでいかなければなりません。今年も引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

岩城裕（オリーブ基金理事長・弁護